

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2418 号

Improved efficacy of taxanes and ramucirumab combination chemotherapy after exposure to anti-PD-1 therapy in advanced gastric cancer

胃癌における抗 PD-1 抗体治療後のタキサン系とラムシルマブ併用療法の効果増強の検討

佐々木 昭典 (ささき あきのり)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、胃癌において抗 PD1 抗体投与療法後にタキサン系とラムシルマブ併用療法の効果増強を初めて明らかにした臨床的に意義ある論文である。他癌腫では抗 PD1 抗体療法後に殺細胞性抗癌剤の効果が増強されたことが報告されているが、胃癌に関しては今まで分かっていなかった。加えて、本論文ではタキサン系とラムシルマブ併用療法以外にも、タキサン系単剤およびイリノテカンに関しても比較を行っており、これらに関しては明らかな治療効果増強は認められなかった。この理由として、ラムシルマブ等の血管新生阻害薬は、腫瘍の栄養血管を阻害する作用のみではなく、制御性 T 細胞の働きを阻害し抗 PD1 抗体の効果増強を生み出すことが言われており、本論文と一致する結果である。また、抗 PD1 抗体投与療法後に再度ラムシルマブを投与する事で、腫瘍縮小を示した症例にも言及されており、こちらも非常に興味深い結果となっている。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。